

新晃工業

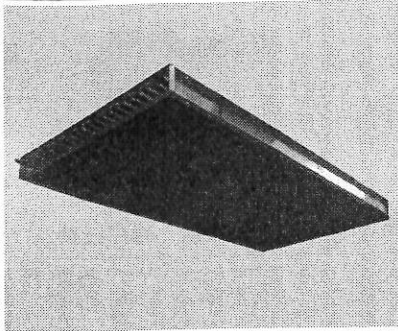
更新案件、手堅く取り込む 新製品相次ぎ投入、需要喚起

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長＝武田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）が先に発表した平成29年3月期第2四半期連結業績（平成28年4月1日～9月30日）によると、同社グループ売上高は176億5千400万円（前年同四半期比11.2%増減）は全て前年同四半期比11.2%増減、営業利益19億3千300万円（6.5%減）、経常利益20億100万円（10.4%減）、純利益13億3千900万円（14.0%減）となった。

5千800万円（1.6%減）、セグメント利益（営業利益）は17億5千700万円（9.6%減）。アジアは売上高30億4千900万円（11.5%減）、セグメント利益（営業利益）は1億7千300万円（54.0%増）となった。

新晃工業は、セントラル空調システム向けにエアハンドリングユニット（AHU）、ファンコイルユニット（FCU）など二次側分野最先端の空調機器をラインアップする。コスト面での優位性や熱源、二次側・補器類などユニット単位でのバリエーションアップを図りやすくとされる同方式の利点を活かす提案を打ち出し、市場深耕に取り組む。

コストパフォーマンスを發揮する。ファンやモーターがないのでメンテナンス性にも優れている。空調方式の違いにより、パッシブタイプのほか、室内空気誘引のアクティブタイプ（CMA型）を用意する。同社では、需要の多くを占める更新案件について、バブル期の物件がすでに更新期に入っていることから、省エネ・小型化提案を軸にそれらの案件を手堅く取り込み、今後の実績伸長につなげる方針。



「クライマトーン」パッシブタイプユニットが図りやすくとされる同方式の利点を活かす提案を打ち出し、市場深耕に取り組む。商品軸では、省エネ・高効率化に

中旬、東京ビッグサイトで開催された「第1回スマートビルディングEXPO」ではチルドビーム「クライマトーン」パッシブタイプCMA型を展示紹介し、反響を呼んだ。

「クライマトーン」は少ないエネルギーで空間全体をきめ細かく空調する快適さに加え、自然対流と放射空調によって人の負担を軽減する『やさしさ』を実現した。ファンの運転音がないため静音性が高く、潜熱処理機との組み合わせで高い